



液状化に関するQ&A

Q1 液状化はどのような所で起きやすいのですか？

A1 「地下水位以下の緩い砂質土層は液状化しやすい」と言われています。

つまり、

- ① 地下水位が高い
- ② 締め固まっておらず緩い地盤
- ③ 粒度が均質な砂地盤

この3つの条件が揃うと、液状化がしやくなると言われております。

埋立地や盛土地、旧河道などは液状化しやすい地盤です。

Q2 地震が起きると必ず液状化するのですか？

A2 このマップはあくまで液状化の可能性の「傾向」を示したもので、「液状化の可能性が高い」地域で必ず液状化することを示したものではありません。

Q3 自宅がマップ上で「液状化の可能性が高い」と判定された場合、どうしたらよいですか？

A3 液状化するかしないかの判断は、その地点でピンポイントの地質調査をする必要があります。主な調査方法として「電気式静的コーン貫入試験（CPT）」「ボーリング調査」などがあります。

詳しくは「[住宅の液状化軽減策](#)」をご覧ください。

Q4 液状化を防ぐためにはどうしたらよいのですか？

A4 液状化しやすい3つの条件である「①地下水位が高い」「②締め固まっておらず緩い地盤」「③粒度が均質な砂地盤」が揃わないようにすることです。

詳しい工法や費用などは「[住宅の液状化軽減策](#)」をご覧ください。

※軽減策を講じたから必ず液状化が防げるというわけではありませんので、ご注意ください※

Q5 一度液状化した場所で、何度も液状化は起こるのですか？

A5 過去の大きな地震では、同じ場所で何度も液状化しているという事例も見られていますので、「一度起こると二度と起きない」とは言えません。

Q6 今までの神奈川県や茅ヶ崎市の液状化ハザードマップと内容が異なりますが、何が違うのですか？

A6 神奈川県や今まで茅ヶ崎市が公表していた液状化ハザードマップは、液状化危険度を示す「PL値」という手法を用いて評価していました。今回茅ヶ崎市が公表した液状化ハザードマップは、この「PL値」に「土地条件」を加味している点で内容が異なります。「土地条件」とは、もとの地形や、人工改変地の有無などによって、液状化の危険性を評価したものです。